

大谷 善正 おあたによしまさ

1954年生まれ、三重県津市在住。軽い仕掛けでの深タナ釣り得意とし、食い渋ったときのチヌを釣らせたら天下一品。チヌの最長寸は56cm。三重県磯釣り連盟会長。

難敵チヌを釣る！

エサ取りの多い夏場や食い渋る厳寒期のチヌ釣りは、本当に難しいという大谷善正氏。それでも結果を出し続ける氏は、どのように配合エサを活用しているのでしょうか。その秘訣を話していただきました。

春

春は乗っ込みで、比較的簡単にチヌが釣れる

私はメインフィールドがグレ釣りの盛んな三重県なので、よくグレ釣りも楽しんでいます。ですが、そこでするのが「チヌ釣りのほうが難しい」ということ。もちろん春の乗っ込み期などは簡単に釣れてくることもあるんですが、エサ取りの多い夏場や食い渋る厳寒期などは、本当に苦労させられます。ですから、いかに仕掛けを自然に流すのが、また付けエサの選択はどつするのかがいったことはもちろん、配合エサのブレンドにも、いろいろと気をつかってやっていますね。



配合エサのブレンド次第で、釣果は大きく変わると大谷氏はいいます。

る時期。浅いところで大型が釣れるので、入門には最適なシーズンといえるでしょう。ただ、まだまだ水温が安定していないので、そういう意味では難しい面もあります。ブレンドパターンは、「チヌパワーG 2」1袋に、「チヌパワーMP」を1/2 ~ 1袋、そしてオキアミを6kgという感じでいいと思います。浅いところ

を攻めるのを意識して、軽めに仕上げたことをイメージしていますね。「チヌパワーG 2」は、着水したらすぐに拡散してゆっくりと沈下する軽めの配合エサ。練りエサの粒やムギ、そして、さなぎや酵母が配合されているので、しっかりとチヌを寄せて食いを立たせてくれます。また、私はこの時期のチヌは濁りに入ってくるケースが



春は、チヌ釣り入門に最適な季節。チヌ釣り未経験者を誘って釣行してみたいかがでしょう。

春のブレンドパターン（一日分）



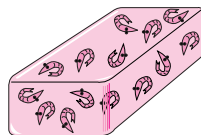
チヌパワー-G2
1袋

+



チヌパワースペシャルMP
1/2 ~ 1袋

+



オキアミ
6kg

夏のブレンドパターン（一日分）



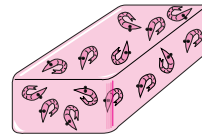
イワシパワーチヌ
2袋

+



チヌパワーG2
1袋

+



オキアミ
9kg

夏

多いと考えていますので、それなりの濁りが出るのも嬉しいところですね。
「チヌパワースペシャルMP」は、「チヌパワーG2」よりも重さのある配合エサ。ですから、配合エサの層を少し縦方向に広げるという意味でブレンドしています。高タンパクな成分が含まれた「MP（マキシマムプロテイン）酵母」やさなぎ、ムギ、カキガラ、魚粉など集魚成分を大量に配合しているので、チヌの寄りも抜群ですしね。

夏は、チヌの活性が上がってくる時期。近場の堤防などでも数が見込め、30〜40cmクラスといった良型も出る。家族連れで竿を振ってもいいんじゃないでしょうか。ただ、エサ取りには悩まされると思います。これをいかにかわすかが勝負になりますね。ブレンドパターンは、「イワシパワーチヌ」2袋に「チヌパワーG2」1袋、そしてオキアミを9kgでいいでしょう。
「イワシパワーチヌ」は、集魚力に優れた「純正イワシ粉末」や、食いを継続させる成分であるUGF、それに酵母、ムギなどが配合された、寄せ効果に優れた配合エサ。ですが、私はこの場合は、ある程度の重さを求めてブレ



ヒシヤク使いは重要なテクニック。しっかりとポイントをつくるための必須要素です。

ンドしています。遠投して、エサ取りの少ない沖めを攻略するためですね。
「チヌパワーG2」は、まとまりを強化するために入れています。着水後すぐに拡散する配合エサですが、練り込むことで使いやすいまとまりが生まれるんですよ。この組み合わせで、全体的に少し硬めに仕上げます。

秋のブレンドパターン(一日分)



チヌパワー
ムギ
1袋

+



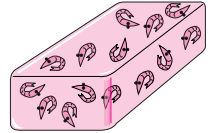
チヌパワー
スペシャルMP
1袋

+



イワシパワー
チヌ
1袋

+



オキアミ
6kg

秋

秋は数釣りを楽しむ季節。釣りのスタイルも、基本的には夏の延長線上で考えていいと思います。

お薦めのブレンドパターンは、「チヌパワームギ」1袋、「チヌパワースペシャルMP」1袋、「イワシパワーチヌ」1袋、そしてオキアミを6kgといった感じですね。「チヌパワースペシャルMP」も、「イワシパワーチヌ」も、重さ



大型チヌを仕留めたときの喜びは大きいもの。条件さえ揃えば、50cm超えも珍しくありません。

のある配合エサ。ですので、「チヌパワームギ」とともにある程度バラケさせながら沈下させ、縦に長い層をつつてタナを探るというイメージで釣っていきます。また、「チヌパワームギ」にはエサ取りに強い大粒のムギやコーンが含まれていますので、これらは確実にチヌのタナまで届くだろうとの狙いもあります。

ちなみにこの時期は、配合エサと混ぜるオキアミに、ボイルオキアミを加えてやるのが有効なときもあります。

冬

冬場の私のブレンドパターンは、「チヌパワーG2」を1/2袋、「チヌパワースペシャルMP」1袋、「イワシパワーチヌ」を1/2袋、そしてオキアミを6kgといった具合ですね。この時期は量が必要になることも考えられるので、場合によってはオキアミは9kgぐらい準備しておいた方がいいかもしれません。

ブレンドの理由としては、「チヌパワーG2」は濁りを出すため。それと、まとまりをつけるためですね。この時期は強い風が吹くことが多いので、操作性は大切な要素。先ほどと解説しましたが、この配合エサは練り込むことで、しっかりとしたまとまりができるんですよ。

「チヌパワースペシャルMP」と「イワシパワーチヌ」をブレンドするのは、冬場の深いタナにいるチヌを攻略するための、重さがほしいからです。もちろん両方とも集魚力が強いという特性をもっていますので、そこに期待するところもあります。

もしかしたら、深くにいるチヌのタナまでは、その効果が届いてくれないかもしれません。ですが、それはそれでいいと考えています。周りにいる工

冬のブレンドパターン（一日分）

チヌパワーG2
1/2袋

チヌパワースペシャルMP
1袋

イワシパワーチヌ
1/2袋

オキアミ
6～9kg

サ取りがエサを食ってくれば、その音などに興味を持って、チヌも寄ってくると思いますから。

■ 付けエサ

付けエサは、基本的には年間を通してオキアミがメインです。よく使うのは「くわせオキアミスーパーハード」。アミノ酸添加で食いがよく、ハード加工でエサ持ちもよい。生オキアミが残るときなどでも、このエサなら結果を出してくれることがよくあります。私自身、十分な釣果実績を出していますね。それに、安心して遠投できるのも魅力です。かなり思い切り投げて、なかなか外れません。春なら乗っ込みの大型を狙って2匹掛け、3匹掛けにするなどしてみてください。ほかには、魚類フェロモンが魚の本能に働きかけ、食い込みが抜群の「くわせオキアミスペシャル」にも注目しています。

エサ取り対策として、夏には「くわせオキアミ半ボイル」のLサイズなども使います。半ボイルですから当然エサ取りには強いですし、「くわせオキアミスーパーハード」と同様にアミノ酸が添加されていて、食いも良好です。

秋は中型の数釣りになるので、「くわせオキアミ半ボイル」を使う場合は、Mサイズがいいでしょう。ほかに、「くわせコーン」を使うこともあります。

これはコーンを一粒ずつ丁寧に手むきしたコーンエサで、栄養価の高い胚芽部分と、実と軸を繋いでいる尖帽をまるごと残しているのが特長。勢いよく振り込んでエサ落ちの心配が少なく、ハリにしっかりと残ります。アミノ酸添加で、食い込みにも優れていますね。冬は活性の低いチヌがターゲットになるわけですから、食い込みを重視した「くわせオキアミ生タイプ」がおすすめ。生オキアミの使用感、身のやわらかさはそのままに、魚の好むアミノ酸も添加されています。居着きの一発大物を狙って、春のよつに2匹掛け、3匹掛けで挑戦してみてください。

なお、もちろん食ってこないときは、たとえばムキ身にするといったことも必要。ときには何匹かをハリ掛けしてチヌにアピールしておいて、そのあとで頭部を取ったもので飲ませるといった作戦もあります。この時期は、いろいろ試してやるのが大切ですね。ちなみに、たとえ冬であっても、エサ取りの存在を考慮して「くわせオキアミスーパーハード」などは用意しておいた方がいいでしょう。



グレ釣りもおもしろいが、チヌ釣りも釣り人魂を燃えさせてくれる。両方の釣魚を狙う、大谷氏の実感です。

マルキューグッズ はみだし情報・4

マルキューキャップ

東レ製の「V5加工生地」を使用したフィッシング・キャップ。静電気が発生せず、ホコリ・シミ汚れがつきにくくなっています。また、水や油をはじく効果も。脱着可能な飛び止め(片側クリップ)を標準装備。サイズフリー。

